

上郡町地区懇談会の開催結果について

1. 開催日程

地区名	開催日時	参加人数	場 所
岩木・赤松	令和 2 年 10 月 31 日 (土) 13:30～15:00	29 人	赤松地区公民館
山野里 (井上・大持・竹万)	令和 2 年 11 月 13 日 (金) 19:00～20:00	19 人	働く婦人の家・ 山野里地区公民館
山野里 (山野里)	令和 2 年 11 月 14 日 (土) 19:00～20:00	20 人	老人憩いの家
高田台	令和 2 年 11 月 15 日 (日) 13:30～14:45	18 人	高田台自治会館
鞍居	令和 2 年 11 月 20 日 (金) 19:00～20:15	23 人	ふるさと館
上郡	令和 2 年 11 月 21 日 (土) 13:30～14:30	19 人	上郡地区公民館
船坂・梨ヶ原	令和 2 年 11 月 22 日 (日) 19:00～20:15	11 人	船坂地区公民館
高田	令和 2 年 11 月 24 日 (火) 18:00～19:00	26 人	高田地区公民館

2. 主な意見

路線バスについて

- ・赤穂行きのバスは、足が悪い高齢者は利用できず、介助がある町内の病院の送迎に頼っているという話も聞くため、町で対応を検討して欲しい。
- ・女子高校生などは、帰りが遅くなるのが心配で、家族が車で送迎している。路線バスが運行すればこの問題も解消できるのではないかな。
- ・路線バスを運行して欲しい。デマンドタクシーは前日予約が必要で利用しづらい。

愛のり号について

- ・収支率を合わせる、デマンド交通運行地区の予約の不便さ解消という 2 点からも、コミュニティバスの運行を検討して欲しい。
- ・まちなかルートを延長して欲しい。
- ・車両の台数を増やすなどして、町全域に愛のり号を導入できないかな。
- ・最近では高齢者の一人暮らしが増えて、買物の送迎のために神戸から家族を呼んでいる人がいるなど、負担が大きくなってきている。高齢になっても車が手放せないため、バスを運行して欲しい。

- ・買物支援や通院支援のボランティアが必要な時代になり、公共交通はますます必要になる。現在運行していない地区にも愛のり号のように気軽に利用できる公共交通を運行して欲しい。
- ・愛のり号は、朝は通勤・通学に利用できる便があるが、夜にもう少し遅い時間帯に利用できる便があるとよい。
- ・町内を走る小型バスは、車両を小型化して地域の中を運行して欲しい。便数を増やして、2時間に1回でもいいので、上郡駅の電車の時間に合わせた便があると利用しやすい。

ていじゅうろうについて

- ・ていじゅうろうは、赤穂への通院に便利だが、診察が終わって帰りの便がない。愛のり号とのつなぎをよくするなどして、利用しやすくして欲しい。

ほほえみタクシーについて

- ・ほほえみタクシーは、運行時のみ経費がかかるのであれば、1日8便にしてはどうか。
- ・デマンドタクシーは、偶数日、奇数日など運行日に制約があり、通院に利用しづらいことが利用者が少ない理由ではないか。
- ・デマンドタクシーやコミュニティバスは、経費を抑える工夫が必要ではないか。
- ・足腰の悪い高齢者は、タクシー車両よりも車高が高いバスの方が乗りやすい。
- ・タクシー車両だと一人しか乗れないイメージがあるので、車両を見直してはどうか。
- ・デマンドタクシーは予約が大変そう。また、乗合にも抵抗がある。

タクシーについて

- ・夜に帰ってきても、上郡駅前にはタクシーはほとんどなく、せめて安い運賃で利用できるようにしてもらえるとありがたい。
- ・タクシー料金の助成制度もあるが、半額とはいえ高い。

自動車交通について

- ・上郡駅前には18時から21時頃は車が大変多い。塾の送迎で路上駐車も多く、事故の危険があるため、学生など若い人には自転車を利用するように働きかけて欲しい。

超小型モビリティについて

- ・超小型モビリティは、個人の購入に、費用の半分程度を町が負担する方がよいのではないかな。
- ・農業をしている人は軽トラックが必要で、わざわざ超小型モビリティに乗り換えることは考えにくい。
- ・超小型モビリティが近距離での移動に適しているのであれば、コミュニティバスやデマンドタクシーよりも、将来的には利用しやすいのではないかな。

交通体系について

- ・まちなかで複数の施設に移動できる交通を検討する必要があるのではないかな。
- ・大富からまちなかへの移動は、野桑からバスを利用することはほとんどない。バス停まで出て、乗り換えるのは現実的に難しく、現在のデマンド交通の方が合理的だと思う。
- ・高齢者に運転免許返納を勧めるのはよいと思うが、上郡町では車がないと移動手段がない。
- ・上郡町は買物・通院難民が問題で、免許を返納する時は、町を出る時だと言う人もいる。通院は病院の送迎サービスが利用できるが、買物は日常的なことなので対策が必要だと思う。

広報・利用促進について

- ・アンケートだけではなく、公共交通を使ってもらうように働きかけることが必要。
- ・デマンドタクシーは、1便あたりの平均乗車人数が2人以下と少なく、赤字で運営が大変だと思う。乗る側にも問題はあると思うが、町からも利用を勧めるような働きかけが必要ではないかな。
- ・愛のり号の運行に町はどれだけ費用を負担しているのか分かれば、利用の意識が高まるのではないかな。
- ・鞍居の路線は観光で利用者を増やしてはどうか。現在の愛のり号のダイヤでも金出地ダムで2時間は滞在できるため、鞍居のバス路線の利用者増のためにも、JRとコミュニティバスの乗り継ぎも含めた観光情報を町から発信して欲しい。
- ・デマンドタクシーは今回初めて知った。もう少しPRが必要ではないかな。

時刻表

- ・以前、通院で赤穂まで公共交通を利用したことがあるが、現在の時刻表は使いにくかった。目的地までどの交通手段を使って、どこで乗り換えればいいかが分かるような使い勝手がよいものがあるとよい。全ての時刻表を1枚に収めることにこだわらず、文字も大きくして欲しい。

バス停

- ・バス停が同じ場所にいくつもある箇所がある。バス停を1つにして、時刻表をまとめて表示した方が分かりやすいのではないか。

外出支援サービスについて

- ・外出支援サービスの利用回数の上限を月2回から月4回までに増やすなど、人が移動しやすくなる提案をして欲しい。
- ・通院でバスを利用した人も、帰りは外出支援サービスでタクシーを利用している人もいる。

その他

- ・鍋倉からバスに乗るには野桑まで出る必要があるため、デマンドタクシーを利用している人もいるが、高齢者は息子や娘など身内の送迎に頼りがちになっている。
- ・コミュニティバスを利用したことがある人もいるが、買物は帰りに荷物が多くなることや、あちこち寄りたいので家族の送迎の方がいいという声があった。
- ・買物難民を地域で送迎することも考えられるが、事故や保険のことが気になる。
- ・ICTなど使い勝手をよくする必要があるのではないか。
- ・コロナの影響で乗り合い乗車には抵抗がある。
- ・スクールバスを活用することはできないか。
- ・飲みに行く時に利用できるバスが欲しい。